

脱炭素に向けて地球温暖化防止活動推進員の 活動を支援しています

～推進員第1回スキルアップ研修会～

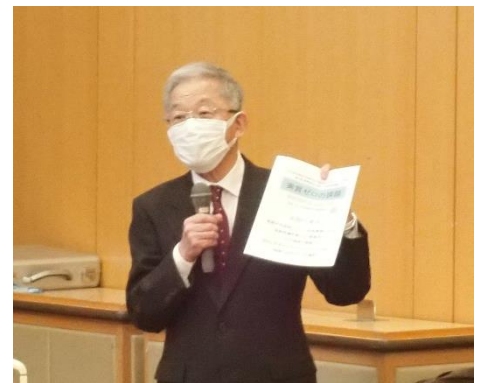
昨年11月18日にホテルレイクビュー水戸において推進員第1回スキルアップ研修会を開催しました。この研修会は、推進員第2回全体研修会に続くもので、活発な意見交換を通じた情報共有と推進員の皆様のスキルアップを目的としたものです。市町村職員を含め84名の参加で開催しました。

第1部 脱炭素化に向けた産官学連携

「実質ゼロの課題」 社会地球化学研究所 代表 水谷広 氏

最初に、「実質ゼロ」とは、CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成することであり、温室効果ガスの排出量をゼロにすることはあきらめたとの説明がありました。

続いて、実質ゼロの課題についてのお話がありました。まず、実質ゼロの前提として、気候が危機に瀕している今、実質ゼロを懸命に追求しなければならないが、それより上位の価値を損なっては何にもならないと強調されていました。また、二酸化炭素以外のメタンの対策が必要ではないか、対策の対象を「人為による排出量」でよいのか、排出の責任を誰にするのか、二酸化炭素の排出量が不明確であり排出量の実態を当事者が把握できていない課題について詳しく説明していただきました。さらに、「なお残る排出」の手当てとしてゼロにできないものを補填するネッツ（Negative Emission Technologies＝マイナス放出技術群、別名CDR：Carbon Dioxide Removal＝二酸化炭素除去）について説明がありました。その中で、森林利用が難しい場合、炭をつくる「2050 ネット・ゼロ藤沢」の紹介がありました。なぜ炭に？その意味は、地表での炭素循環から切り離して生物圏の循環から地圏の循環に移して大気に戻さないとするものです。



最後に、「実質ゼロ」は、私たちの未来のために早急に達成しなければならない、望ましい未来をもたらす手段であり目的ではない、さらに多種多様な課題がある。それぞれの地域にあった課題解決を追求するべきであり、有機廃棄物の炭化は多くの地域で実践できるCO₂削減策であるとまとめていただきました。

最後に、「実質ゼロ」は、私たちの未来のために早急に達成しなければならない、望ましい未来をもたらす手段であり目的ではない、さらに多種多様な課題がある。それぞれの地域にあった課題解決を追求するべきであり、有機廃棄物の炭化は多くの地域で実践できるCO₂削減策であるとまとめていただきました。

第2部 茨城県地球温暖化防止活動推進員の活動

◆「地域循環共生圏SDGs登録と推進員の行動」、

「こんにちは！北茨城エコフレンドです」 北茨城エコフレンドの皆さま

最初に、グループ構成員が所属する企業が地域循環共生圏ローカルSDGsに登録したとの説明がありました。続いて、北茨城エコフレンドの活動の紹介がありました。

不定期に継続してきている活動報告として、2012～14年市内小学校へのエコクッキング講座、16～18年自然観察会の実施、17年エコかるた作成、18年科学の祭典に出展しエコたわし作り、20年はコロナ禍で推進員の勉強のために、清掃工場を見学。また、定期的に開催してきて、今後も定期継続する活動として、08年から開催されている市民まつりに参加し、保冷剤や廃棄物利用の小物づくり、16年から市内小学校祭りに参加し、講話とエコたわし作り・エコかるた取り実施、18年から学童保育施設及び高齢者サロンでの出前講座実施、20年からコロナ禍によりSDGs勉強会、毎年2回店頭や駅前での省エネキャンペーンの実施など各種の活動を紹介していただきました。



◆「地域の地球温暖化防止活動」

P e a c h O t h e r 茨城の皆さま

P e a c h O t h e r 茨城は、茨城県地球温暖化防止活動推進センター主催の「クールアースいばらき大会」に昨年度と今年度2年連続で出場して活動を発表しています。

SDGs ウェディングケーキモデルに沿って活動報告をしていただきました。環境の13番（気候変動に具体的な対策を）が、グループの活動を始めた原点となったそうです。谷口たかひささん講演会と水戸気候マーチの説明がありました。14番（海の豊かさを守ろう）では海岸でのごみ拾い、15番（陸の豊かさを守ろう）では道路沿いでのゴミ拾いやきらめ樹皮剥き体験の紹介がありました。



続いて社会の7番（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）では、風力発電所や地中熱システム、太陽光発電施設など見学、11番（住み続けられるまちづくりを）では、県内自治体首長への表敬訪問、16番（平和と公正をすべての人に）ではシトラスリボンプロジェクトへの賛同、子ども第三の居場所事業見学、経済の8番（働きがいも経済成長も）では那珂市内の農園見学、12番（つくる責任 つかう責任）では着物と帯のリユース見学、プラスチックごみ対策の勉強会、2番（飢餓をゼロに）では、フードバンクへの協力などわかりやすく活動紹介をしていただきました。

第3部

◆「地域気候変動適応計画策定のすすめ」

◆「地域脱炭素ロードマップと再生可能エネルギービジョン」

◆「地域循環共生圏ローカルSDGs登録のすすめ」

茨城県地球温暖化防止活動推進センター事務局職員により、「地域気候変動適応計画策定のすすめ」、「地域脱炭素ロードマップと再生可能エネルギービジョン」、「地域循環共生圏ローカルSDGs登録のすすめ」についてそれぞれ説明しました。